

「心がける」ことの大切さ

大本總持寺布教教化部出版室長 蔵重宏昭

最近、久しぶりに満員電車に乗らざるを得ずギュウギュウ詰め状態で立っておりましたら、ある駅から高齢のご夫婦が乗り込まれました。

すると目の前に座っておられた外国の中年男性が何の躊躇もなくどうぞとばかりに席を譲られました。その瞬間、それに呼応するように隣へ座っておられた日本の中年男性がこれまた躊躇なく席を譲られました。お蔭でご夫婦二人揃って座ることが出来たのでした。

普段は電車に乗る機会の少ない私ですが、こうしたことは満員電車で日常的にあるのでしょうか。先入観で満員の電車内はトラブルばかりかと勝手に思い込んでいた自分を反省しました。また、窮屈で不自由な場所が途端に和らぐ気もしたことでした。

それにしても、中年男性方の躊躇なく実にさりげなく席を勧めた姿が印象的でした。普通ならばつい自分の坐り心地の良さを優先し躊躇してしまい譲る機会を逸してしまいそうですが、彼らは普段からそう心がけているのか行いに迷いは感じられませんでした。

恐らく「必要な人に席を譲る」ことを常日頃「心がけ、ていらっしゃるからこそ咄嗟に行えたのだと察します。

本山のご開山・瑩山禪師さまの著述『洞谷記』に「菩提心を生生しょうしょうに発す」という誓願のお言葉があります。「自分はさておき他の為になす心がけをいついつまでも発揮する」という意味です。禪師さまは実際ご生涯の節目で、菩薩としての大きな誓願を三度なされたと伝えられています。それ以外の人生の場面にも事あるごとに心がけていらっしゃったことは想像に難くありません。禪師さまに倣う私たちもまた、心がけを発揮する機会に備えるべきでしょう。

満員電車のように「自分はさておき他の為になす心がけを発揮する」場面は自分にとって都合の良い場面ではなくむしろ逆。窮屈で不自由な場面だからこそ、それを発揮する機会は巡ってくるのです。視点を変えれば、世間のいかなる場所・場面にも「心がける」ご修行の機会はあるもの。

「生生しょうしょうに」心がけてまいりましょう。（終）